

平成 24年8月1日(水)発行

道建協とうほく

No 49

発行 一般社団法人 日本道路建設業協会
東北支部 広報委員会



<最上川>
松尾芭蕉に、<五月雨を集めてはやし最上川>と読まれた最上川は、山形県を流れる一級河川最上川水系の本川。流路延長 229km は、一つの都府県のみを流域とする河川としては、国内最長。流域面積 7040km²。日本三大急流の一つである。

【最上川の舟下り (村上)】

目次

行事報告	1
対外活動	9
幹事会・委員会活動	10
随想 菅野 悟 防災副委員長	12
皆川 淳一 公共工事副委員長	13
会員だより フジタ道路株式会社東北支店	14
世紀東急工業株式会社東北支店	15

行事報告

1. 第64回 東北支部定時総会

日時 平成24年6月15日(金) 15:30~
場所 仙台国際ホテル 2階 平成の間
出席会員数: 25社 委任会員数: 4社



【総会次第】

1) 支部長 挨拶

2) 本部役員紹介

三好会長、水島副会長、横田副会長

常任幹事(石井、磯、大西、小林、佐藤、滝田、前山、渡邊)

堀江常務理事

3) 三好会長 挨拶(要旨)

- ・平成24年度予算は、公共事業関係費は対前年比約8%減で、別枠で相当額の震災復興関連予算が計上されているとはいえ厳しいが、今回の大震災で再認識されたように幹線道路網の整備は国民の安全・安心の確保の上で欠かせない。今後とも道路整備が着実に推進され、適切な維持管理水準が確保されるよう要請していきたい。
- ・これまで培った技術と企業の総合力を生かし官民連携によるインフラ事業への取組みにも積極的に対応していく。
- ・入札契約制度でも、協会としては適正な利益を上げながら健全に発展していくことを目指して対応して行きたい。
- ・地球温暖化への対応として環境に寄与する各種技術の開発とその普及に取り組んでいきたい。
- ・道路建設業界は健全な発展を図り、社会的使命を果たすと共に一層の企業努力を行う必要がある。特に、東日本大震災の被災地の復興は最重要課題であり、復興事業の円滑な推進に協力をお願いしたい。



4) 議 事

1号議案 平成23年度事業報告(案)

2号議案 平成23年度決算(案)

3号議案 役員選任の追認

4号議案 平成24年度事業計画(案)

5号議案 平成24年度予算(案)

6号議案 役員の改選

1号~5号の議案は全て、原案通り承認可決されました。

支部長挨拶

支部長 早稲田 高 茂



第64回一般社団法人日本道路建設協会東北支部定時総会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しい中、会員の皆様には多数ご出席いただきありがとうございます。また、本部より三好会長をはじめ、役員の皆様方にご臨席を賜りありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

昨年3月11日東日本大震災から1年3ヶ月あまり経とうとしており、あらためて被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

平成23年度の道路関係予算はほぼ前年並みという形で東北はスタートしました。会員の皆様の大変厳しい事業環境が予想されましたが、3月11日の震災発生により東北地方の事情は一変し、被災地域では会員の皆様がそれぞれ緊急復旧に取り組む一方で、本部や他支部から支援いただいた資機材の提供を継続し支部の活動は始まりました。ここ10数年続いた建設市場の縮小は地元会員をはじめとして道路建設業界や関連業界はその体制の縮小を余儀なくされ、復興予算・補正予算による復興への対応へのパワー不足が懸念されています。また、被災地以外のエリアでは厳しさに一層の拍車がかかっています。復興元年といわれ、いよいよ本格化する復興事業への新たな課題として、建設資機材の不足と価格上昇が顕在化してきました。これらは体制の縮小と併せ復興のスピードを鈍らせるだけではなく、会員の経営を圧迫することが懸念されます。これらの課題に対し、関係機関との諸課題の検討や意見交換が行われ、問題の改善に向けた動きが徐々に始まりつつあります。

一方で「命の道」として道路の果たした役割が評価され、その重要性が再認識されました。復旧・復興を通して地域のために汗を流している私達の存在感も一定の評価をいただきました。

あわせて、社会貢献活動の一環として、これからの日本を背負う子供達のために、仙台市内の被災した小・中学校に行事用テントを贈呈、宮城ほか被災三県に対し地元会員のご協力を頂き震災遺児育英基金への寄付を、また、被災した二箇所の道の駅にAEDの寄贈を実施、関係機関に大変感謝いただきました。このように繁忙さと厳しさ、地域への貢献への係わりの充実感が錯綜した1年でした。

会員を取り巻く環境が大きく変化するなか、幹事会・各委員会活動を中心に支部協会活動は所期の目標を達成できました。協会が事業継承した「舗装施工管理技術者資格試験制度」、また、審査機関としてスタートした「アスファルト混合物事前審査制度」も所期の成果をあげることができました。

会員の皆様の協会活動へのご支援・ご協力にあらためて厚く感謝申し上げます。

本日は次第にもありますように、「23年度事業報告・決算（案）」、「役員選任の追認」、「24年度事業計画・予算（案）」、および「役員改選」の議題についてご審議いただくことになっております。

最後までどうぞよろしくお願い申し上げます。挨拶といたします。

新支部長に早稲田支部長が 再任されました

支部長就任挨拶

新支部長 早稲田 高 茂

只今、本部三好会長より新支部長に
拝命いただきました早稲田です。

今年度は復興元年と言われていまし
て、整備局執行の直轄国道予算和は皆
さんご案内のとおり23年度比で1.
8倍と言われております。事業の執行
にあたりましては、体制の強化と言
うことから事業促進PPPが導入され
ました。入札契約上の工夫といたしま
して、発注ロットの大型化が打ち出さ
れております。また、災害復旧関連に
つきましては舗装繕工事が増加する
のではないかと予想されております。

復興道路事業計画によりますと、三
陸沿岸高規格道路では継続事業個所
の事業促進はもとより新規事業区
間においても、今後10年で完成さ
せることを目標に取り組んでいくと
言われております。我々の舗装工
事も5年から10年でそのピーク
を迎えるのではないかと想定され
ております。

また、21年度から東北地方整備局
で試行されてきました舗装の長期保
証制度が今年度から全国で展開され
ることになりました。この制度の発祥
地である東北の協会としては引続
き舗装の長寿命化についても研鑽
していくことが肝要ではないかと思
っております。

地方自治体によります復興事業は
今後スピードアップすることが期待
されております。一方で人手不足・
宿舎の不足・資機材の不足・価格
高騰といったような懸念すべき課
題への取り組みも急がれます。引
き続き関係団体と連携を取って事
態の更なる改善に取り組んでいき
たいと思っております。

防災緊急支援といった観点から道
路が果たした役割が命の道として、

重要性・緊急性が非常に強くなって
きている。発災から1年3カ月余り
過ぎました。多くの悲しみや苦しみ
とともに湧きあがったこの熱い思
いを決して風化させることなくその
実現に向けて取り組んでいくこと
が我々の使命であると思ってい
ます。

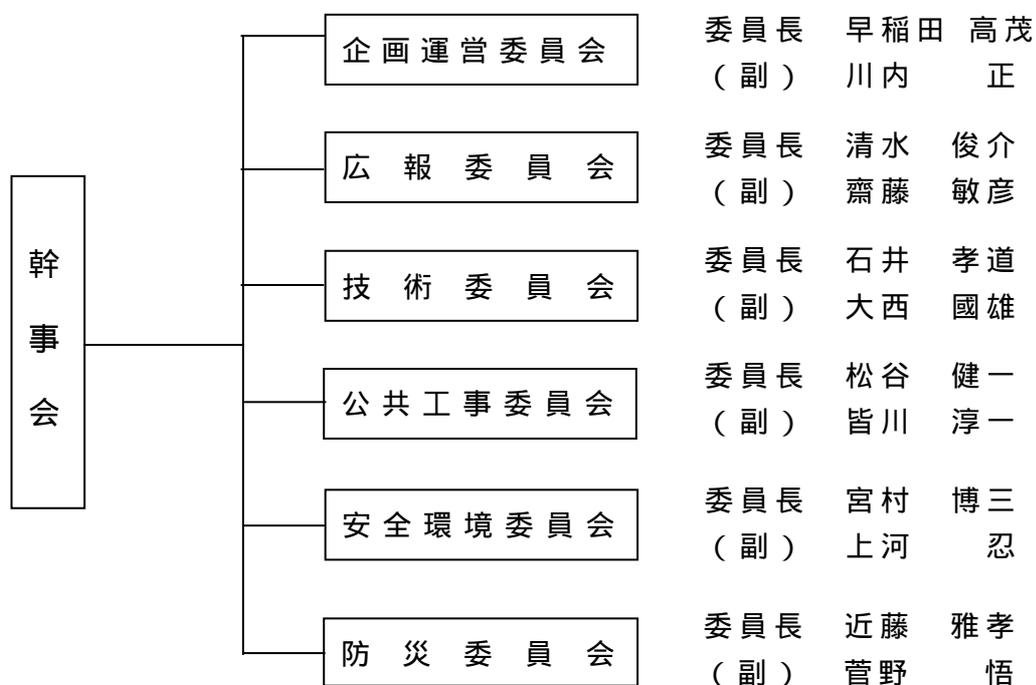
本日ご臨席の本部の皆様のご指
導をいただきながら社会資本整備
の担い手としての役割や地域への
貢献度を高めようとする取組みを
進め発信をしていきたいと思っ
ております。先ほど会長のご挨拶
にもありました道路建設業協会は
4月1日から一般社団法人に移行
しました。協会の設立目的である
「道路技術の発展」、「道路整備
の推進」、「道路建設業界の健
全な発展」のため、本部と一体と
なって幹事全員が力を合わせて活
動を推進して参りたいと思ってい
ます。本日ご臨席の皆様方の更
なるご支援・ご協力をお願いしま
して、新支部長の挨拶とさせていただきます。



【支部 新役員】（敬称略）

支部長	早稲田 高茂	(株)N I P P O 東北支店
幹事長	川内 正	東亜道路工業(株) 東北支社
幹事	松谷 健一	大林道路(株) 東北支店
	石井 孝道	鹿島道路(株) 北日本支店
	清水 俊介	世紀東急工業(株) 東北支店
	近藤 雅孝	大成口テック(株) 東北支社
	菅野 悟	日建工業(株)
	宮村 博三	日本道路(株) 東北支店
	小野 利廣	福島県南土建工業(株)
	皆川 淳一	福田道路(株) 東北支店
	大西 國雄	前田道路(株) 東北支店
	会計監事	齋藤 敏彦
	上河 忍	(株)佐藤渡辺 東北支店

【支部 委員会組織】（敬称略）



2. 表彰式

総会に先立ち、協会功労者（特別功労、支部役員、委員会委員、技能社員）及び安全優良工事現場代人に対する表彰が行われました。協会功労者表彰は5月22日、本部総会で表彰が行なわれていますが、東北支部の受賞者を、支部総会の席で、改めて披露するというので、総会に来賓としてご臨席の本部三好会長から、直接本人に表彰状を授与していただきました。

（以下、敬称略）

特別功労表彰（本部表彰・1団体8名）

一般社団法人日本道路建設業協会東北支部 東日本大震災対策本部

対策本部長 早稲田 高茂（株）NIPPON
副本部長 近藤 雅孝（大成ロテック株）
部 員 若狭 良一（株）NIPPON
" 大山 英郎（前田道路株）
" 伊藤 忠良（常盤工業株）
" 浪岡 亮（株）竹中道路
" 阿部 敏明（東亜道路工業株）
" 黒木 邦彦（大林道路株）



【特別功労受賞者】

支部役員表彰（本部表彰・1名）

幹 事 小野 利廣（福島県南土建工業株）



【支部役員受賞者】

委員会委員表彰（本部表彰・3名）

技術委員会 清水 浩昭（世紀東急工業株）
公共工事委員会 畑 淳（鹿島道路株）
安全環境委員会 早坂 良二（前田道路株）

技能社員表彰（本部表彰・12名）

竹田 高夫（鹿島道路株）	高城 純一（鹿島道路株）
小野塚好勝（株）佐藤渡辺	小野寺重政（世紀東急工業株）
船木 由夫（大成ロテック株）	大橋 良一（戸田道路株）
大宮 秀春（日建工業株）	小納 勇（株）NIPPON
菅原喜久男（株）NIPPON	安住 睦男（日本道路株）
佐々木周工（前田道路株）	橋本 義治（前田道路株）

安全優良工事表彰（支部表彰・4名）

・根下戸新町地区舗装工事	荒津内弘志（株）ガイアートT・K
・石巻管内応急復旧その3工事	木村 直幸（東京舗装工業株）
・矢引地区舗装工事	阿部 憲二（世紀東急工業株）
・大岩川地区舗装工事	桜田 洋（前田道路株）



【委員会委員受賞者】



【技能社員受賞者】



【安全優良工事受賞者】

3 . 東北地方整備局との意見交換会

さる7月10日、東北地方整備局との意見交換会を行ないました。

東北地方整備局から徳山日出男局長、岩崎副局長をはじめ11名、当協会本部から三好会長他13名、東北支部から早稲田支部長以下7名、計33名が出席しました。

担当技術者の評価方法、新工種の単価設定や間接工事費の地域補正等について活発な意見交換が行なわれました。早稲田支部長からは震災後の状況を鑑み必要に応じて適宜意見交換の機会を持って頂くようお願い致しました。また、徳山局長から東日本大震災発生直後の本省とのやり取りや今後の復旧・復興に向けての取組みや問題点等についてPPTを使って分かり易くご説明いただきました。



【意見交換会議題項目】

- ・ 社会資本整備に関する要望・提言
 - 1 . 東日本大震災からの速やかな復旧・復興の推進について
 - 2 . 適切な道路維持管理水準の確保について
- ・ 制度等に関する課題・要望等
 - 1 舗装の長寿命化等に関すること
 - 1 . 長寿命化に向けたコンクリート舗装について
 - 2 . 長期保証の舗装工事について
 - 2 入札・契約等に関すること
 - 1 . 調査基準価格の更なる見直しについて
 - 2 . 間接工事費の大都市補正対象都市の拡大と間接工事費の実績変更方式の採用について
 - 3 . 新規工種を追加する場合の変更契約手続きの適正化について
 - 4 . 施工パッケージ型積算方式の運用について
 - 3 総合評価に関すること
 - 1 . 総合評価における配置予定技術者評価について
 - 4 その他
- ・ 報告事項
 - 1 . 中温化（低炭素）アスファルト舗装の試行工事における検証
 - 2 . 中温化（低炭素）アスファルト舗装の手引きの発行について
 - 3 . アスファルト混合物事前審査制度の状況

4 . 北陸道路舗装会議

世紀東急工業株式会社
東北支店長 清水 俊介

さる6月5日と6日の両日、北陸地方整備局と新潟、富山、石川の3県、日本道路建設業協会北陸支部などが主催する「第12回北陸道路舗装会議」が開かれました。

この会議は3年に一度のペースで開催され、今回は「安全・安心な道づくり～大規模地震の体験から学ぶ」をテーマのパネルディスカッション又、報文やポスターセッションでは計103件技術が紹介されました。

この会議には東北支部からも早稲田支部長、川内幹事長をはじめとする幹事8名と事務局が参加し交流を深めました。

交流会では、この会議の主催者代表 河江芳久日本道路建設業協会北陸支部長へ早稲田東北支部長から東日本大震災にいち早く支援活動を頂いたことに対し、お礼を申し上げますと共に、早稲田支部長は特に北陸支部から提供された318基の仮設トイレは震災後 早急に三陸被災地に送られ、多くの方が活用でき恩恵を受けたことを報告し、感謝の意を伝えました。河江北陸支部長から「北陸支部はこれまで被災地に仮設トイレを送ってきたが、東北に送ったトイレが役目を果たした後、318基すべて北陸に帰ってきたことに驚いている。いままでこのようなことはなく、東北の方々の誠実さと東北に脈脈と受け継がれてきたそのような文化があるのではないか」と感心される話が述べられました。

最後に、今回のイベントには二日間に渡り国内全域から延べ1000人近くが参加し、閉会の挨拶では、北川真副委員長が「今後とも我々が自信と誇りを持って仕事を行なうことが(東日本大震災を)風化させないための役割だと思う」と述べ、大会を締めくくりました。

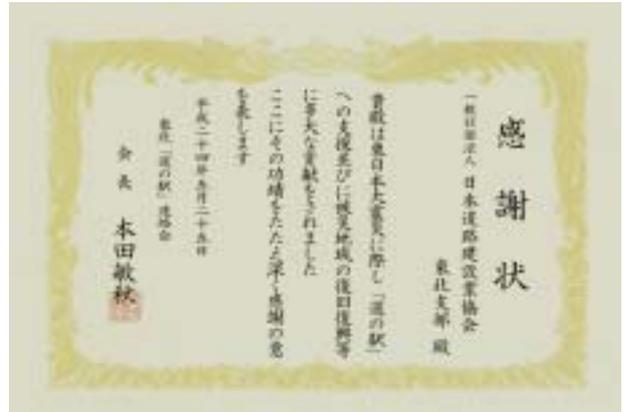


手前左が河江北陸支部長

5. 東北「道の駅」連絡会からの感謝状

5月25日、支部活動が『東日本大震災における「道の駅」への支援ならびに「道の駅」を通じた被災地域の復興に貢献を行なった』功績に対し感謝状が贈呈されることとなり、贈呈式へは早稲田支部長が出席し、東北「道の駅」連絡会会長本田遠野市長から感謝状が贈呈されました。

平成20年度から社会貢献活動の一環として「道の駅」にAED（体外式除細動機）を寄贈しておりますが昨年度は震災で被災した地域の復興を願う意味で、道の駅「よつくら港」と道の駅「さんりく」に寄贈し、支部管内の8箇所の道の駅に設置され今年度も2箇所への寄贈を予定しています。



6. 舗装施工管理技術者資格試験

平成24年度舗装施工管理技術者資格試験を6月24日（日）に実施しました。仙台では1級が仙台医療福祉専門学校（中央校舎本館）、2級が昨年同様、東北電子専門学校の2会場で行ないました。当日は1級会場では予定していた試験室の1つが使えず、急遽別部屋を用意するといったアクシデントもありましたが、試験開始には間に合い、事なきを得ました。天候にも恵まれ交通機関も順調で遅刻者などの問題も無く無事終了しました。

仙台会場及び全国の受験者数は下表のとおりです。



【受験者数】

()内は受験率

	1 級		2 級	
	一般 + 応用	応用のみ	一般 + 応用	応用のみ
仙台	468 (71%)	64 (96%)	235 (79%)	30 (94%)
全国	3,775 (70%)	566 (92%)	1,917 (77%)	209 (91%)

対 外 活 動 (H24/6/1～)

1 . 東北地方整備局関係

E E 東北 実行委員会作業部会

日 時 平成 2 4 年 7 月 2 5 日 (金)

場 所 フォレスト仙台

出席者 松原 (代理出席)

- 議 題
- 1) 「 E E 東北 ‘ 1 2 」 開催概要
 - 2) 出展状況
 - 3) 「 E E 東北 ‘ 1 2 」 予算案
 - 4) ブース等配置計画
 - 5) プレゼンテーション計画
 - 6) 震災関連特設ブース
 - 7) 広報計画
 - 8) ガイドブック
 - 9) その他

建設資材対策東北地方連絡会

日 時 平成 2 4 年 7 月 2 3 日 (月)

場 所 東北地方整備局

出席者 畠山事務局長、阿部公共工事委員

- 議 題
- 1) 建設資材の需要見通し等について (発注機関)
 - 2) 建設資材の供給可能量・運搬車両等について (資材業者団体)
 - 3) 建設資材に関する意見交換 (発注機関、各団体)

2 . 東日本高速道路(株)東北支社関係

東北支社管内防災協定について

日 時 平成 2 4 年 6 月 2 5 日 (月)

場 所 東日本高速道路(株)東北支社

出席者 中村調査役ほか 3 名

近藤防災委員長、新田防災委員、畠山事務局長

議 題 防災協定について

幹事会・委員会活動

(H24/5/1~)

1) 幹事会

【第1回】

日 時：平成24年5月29日(火)

出席者：早稲田支部長、川内幹事長、幹事10名

(松谷、齋藤、近藤、石井、上河、大西、菅野、宮村、皆川、清水)

- 議 事： 1) 会員異動・活動の概況(3/21~)
2) 平成23年度決算見込み
3) 平成24年度暫定予算について
4) 第64回総会について
5) 平成24年度委員会編成・人事について
6) 協会功労者表彰・平成24年度受賞者について
7) 安全優良工事の表彰について
8) その他

【第2回】

日 時：平成24年7月25日(水)

出席者：早稲田支部長、川内幹事長、幹事10名

(松谷、齋藤、近藤、石井(代)、上河、大西、菅野(代)、宮村、皆川、清水)

- 議 事： 1) 会員異動・活動の概況(5/29~)
2) 意見交換会結果について
3) 平成24年度防災協定の更新について
4) アスファルト混合物事前審査制度の実施状況について
5) 舗装施工管理技術者資格試験の実施について(報告)
6) SAFETY2012安全論文の募集について
7) 平成24年度舗装施工管理技術者技術講習会について
8) その他

2) 広報委員会

【第1回】

日 時：平成24年5月22日(火)

出席者：清水委員長、齋藤副委員長、委員9名

(佐藤、村上、三上、林、三澤、木目澤、国井、宮本、伊藤)

- 議 事： 1) 平成24年度の活動計画について
2) ロードレポーターの取り組み状況について
3) 「道建協とうほく」の発行状況について
4) 「70周年記念誌」発刊に向けて資料収集について
5) その他

【臨時】

日 時：平成24年6月8日(金)

出席者：委員7名(佐藤、村上、三上、林、三澤、国井、伊藤)

議 事：第64回総会支援について

3) 公共工事 委員会

【第1回】

日 時：平成24年6月4日(月)

出席者：松谷委員長、皆川副委員長、委員12名

(佐藤、熊本、秋山、新田、網代、杉崎、若狭、下館、田澤、
吉本、大山、佐々木)

議 事： 1) 平成23年度活動状況について
2) 平成24年度活動方針について
3) その他

【委員会幹事会】

日 時：平成24年7月23日(月)

出席者：委員8名(佐藤、熊本、秋山、網代、若狭、田澤、大山、大山)

議 事： 整備局との研究会(意見交換)開催について

4) 安全環境 委員会

日 時：平成24年7月19日(木)

出席者：宮村委員長、上河副委員長、委員10名

(須藤、伊藤(勝)、鈴木、秋山、菊池、高橋、伊藤(忠)、佐々木、
永澤、齋藤)

議 事： 1) 官民合同パトロールについて
2) 現場パトロールについて
3) 安全講習会について
4) SAFETY2012について

5) 防 災 委員会

【第1回WG】

日 時：平成24年5月21日(月)

出席者：委員7名(新田、浪岡、網代、伊藤(忠)、大山、小野寺)

議 事： 1) 平成24年度版「東北地整との防災協定」の更新について
2) 平成24年度版「NEXCOとの防災協定」の更新について
3) その他

【第1回】

日 時：平成24年7月24日(火)

出席者：近藤委員長、菅野副委員長、委員11名

(新田、奥村、中上、堂尻、石頭、網代、伊藤、井田、大山、
坂上、西脇)

議 事： 1) NEXCOとの打合せ結果について
2) 平成24年度活動について
3) その他

随 想

『それでも「コンクリートから人へ」ですか？』

防災委員会 副委員長 菅野 悟
(日建工業株式会社)



私共の建設産業は、常日頃から地域及び住民と密着した活動を展開してきています。このような状況の中で、1,000年に一度と言われている東日本大震災が発生しました。

この甚大な災害で、人員・機械能力を有し、特に、地域の地形や気象等の実情を熟知している強みから、ライフラインの遮断、通信手段の途絶等の過酷な状況下の中で、自ら被災しているにもかかわらず、建設産業としての大きな使命感を持ち、住民の安全避難、緊急パトロール、道路啓開、人命救助、行方不明者捜索や道路・河川・排水機場の応急復旧作業、更にガレキ撤去、食料・飲料水・衣類の提供、仮設トイレの設置等、昼夜に亘る応急復旧活動を着々と進め、この一年間休まる暇もなく実施して参りました。

この作業に、それぞれの立場で、それぞれの持ち場で携わった方々に「ご苦労様でした」そして「有難うございました」と感謝申し上げたい。

「コンクリートから人へ」で公共事業、特に建設産業が「不必要」「悪だ」と報道なされている中での大震災の発生でしたが、公共事業による防災施設等が多くの人命を守ったのも事実であり、自衛隊や消防団、警察の救助活動が華々しく連日報道されている中で、地道に粘り強く復旧作業を続けた建設産業の活躍は「地域住民」の方々が実感しており、必要性を改めて認めて頂いたと思われます。

「藤井 聡」京都大学教授の「列島強靱化論」によれば、予想される「首都直下地震、南海トラフ地震」による45万人の人命の損失と500兆円を越す被害が危惧されています。これに備えた大規模対策に10兆～20兆円の財政出資を10年間継続されれば、我が国は強靱になり致命傷は避けられ、国家の存続を期すことが可能であると論じています。これが実施されれば、国内の仕事総量が増え、デフレ脱却と経済成長も可能になり、財政も健全化するでしょう。

つまり「強靱化」が「富国」につながる、
「列島強靱化論」を私は支持します。

『歩くことの大切さ』

公共工事委員会 副委員長 皆川 淳一
(福田道路株式会社 東北支店)



東北支店に赴任し、早いもので2年4ヶ月が経過しました。

それまでは会津若松での勤務が長く、工場長をかわきりに営業所長、地域施工会社の社長と約30年、人生の半分をこの地で過ごしました。いきなり支店長を命ぜられ、杜の都仙台で何も知らない私が勤まるわけがないと思っておりました。しかし何とか職務を全う出来ているのも、同業者の優しい諸先輩方、道建協の事務局スタッフのご指導のおかげと皆様方には非常に感謝しております。

「道建協とうほく」の寄稿のお願いがあった時には、全く無趣味な私にとって何を書いたらいいか非常に悩みました。麻雀・パチンコの話は書くわけにいかず、ゴルフに関しても昔は「90切らなかつたらゴルフじゃないぞ」と言っていた自分も今は100を切るのがやっとの有様。何を書こうか困っているところに、先月受診した健康診断の結果票が届きました。

実は仙台に来てから健康体に変身いたしました。365日酒を切らしたことの無い私は、以前γ-GTPが800以上あり、医師からは「1000を超えたら即入院だ」と言われておりました。しかしここ2年の結果は90前後、血圧はいつ測っても正常値、健康診断の所見も異常無しでありました。何故かと考えたところ、思い当たるのは「歩く」機会が非常に多くなった事。以前は何処に行くにも移動手段は車でした。しかし仙台は車が多くいつも道路が渋滞しており、それならばと市内に出かける時は歩き、もしくは地下鉄を利用することにしました。通勤も、それと大好きな国分町からも歩くよう心がけています。健康作りは「歩きが基本」だと最近つくづく感じております。

皆さん、365歩のマーチを口ずさみながら毎日楽しく歩こうではありませんか。



会員だより

復興に向けて』

フジタ道路株式会社 東北支店
総務部 日暮 猛

支部会員の皆様におかれましては、平素より格別の御協力を賜り誠にありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

さて、このたび寄稿の依頼を頂戴し、本誌面をお借りしまして、少しでも当社の宣伝をさせていただきたいと思っております。

はじめに、昨年3月11日に発生した東日本大震災からもうすぐ1年半が経過しようとしております。亡くなられた方や被災された方々には、改めてお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、地震、津波、原発事故と、かつて経験したことのない被害をもたらした未曾有の災害は、今もなお多くの方々を苦しめております。当社としましては、早期復興に少しでもお役に立てればと、今年度より災害復旧の拠点として、宮城東部営業所を開所致しました。

そして、“がんばろう東北”の名の下に、全国から支店、営業所に配属されてきた社員は、全員一丸となって復興事業に尽力する所存でおります。それには会員の皆様、協力業者の皆様のお力添えなくしては成り立ちません。今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。

最後になりますが、11月には当社創業50周年という節目の年を迎えます。これを機に支店組織の充実を図り、営業所を十分に機能させて、東日本大震災復興の役割を担っていきたく思っております。

“心をひとつにがんばろう日本” “がんばろう東北”



【宮城東部営業所（東松島市）】

復興に向けた思い』

世紀東急工業株式会社 東北支店
登米営業所 加藤 政雄

人々に忘れられない記憶と被害をもたらした『東日本大震災』より一年が過ぎた今年の4月、私は栃木県より赴任して来ました。

私は入社してから六年間、八年前までこの東北にて仕事をしていました。その為、震災当時メディアから流れる被災した地域の映像や、被災した方々の生活を目の当たりにして、私が生活していた頃見ていた景色とのあまりの違いに愕然としたことを、つい昨日のように鮮明に記憶しています。被災された方々の中には当社の社員や私の知り合いもあり、東北を離れていましたが自分のことのように不安な日々を過ごしたことを憶えています。

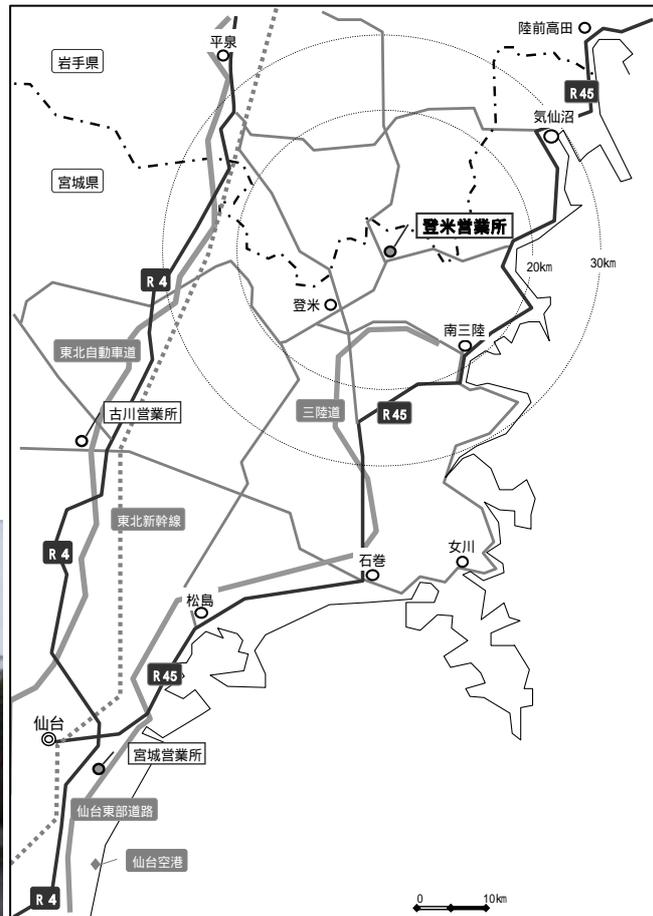
そしてこの度、八年振りに東北に赴任することとなり、少しでも早く東北の皆さまが以前のような生活に戻れるよう、微力ながらも精一杯努力していこうと考えています。

その復興への手助けとなるべく、当社では今年の五月に宮城県登米市に登米営業所を開設しました。この登米営業所を拠点とし、気仙沼市から石巻市まで震災復興に向け、迅速に対応出来る体制を整えました。ここが私の主な職場となります。所長を含め所員が若く、明るくフットワークの良い営業所です。現在はまだ、地元の皆さまの当社への認知度も低い為、地道に皆さまのもとに伺って、当社のことを理解していただく作業を日々、行っています。

最後に、今回の震災に遭われたすべての方々に、以前のような生活が送れて以前以上の笑顔で笑える日が来るように、祈念しております。



【登米営業所（登米市）】



【登米営業所位置図】

編集後記

道建協とつほく 49 担当

佐藤 八郎（大林道路(株)東北支店）

村上 薫（鹿島道路(株)東北支店）

平成24年度2回目の広報誌発刊に際し、大変お忙しい中、ご寄稿いただいたみなさま、ご協力ありがとうございました。

発災以降、復旧・復興活動にご尽力いただいております甲斐あって、被災地の状況も着実に改善してきているように思います。先日、協会より特別功労表彰を受賞された早稲田支部長様はじめ会員みなさまの尽力の賜です。改めて感謝申し上げますとともに、一日も早い復興に向け、これからもよろしく願いいたします。

先日、会社を離れられたみなさんが、趣味で始めた家庭菜園を拝見させていただきました。在職中に「定年後はのんびり畑でも耕し、無農薬野菜に舌鼓を打ちたい」との思いを実践されていたのです。

休耕になっていた畑を借り上げ、共通の趣味をお持ちのみなさまが汗を流しておられました。

「会社を辞めたら一緒に畑で野菜を作ろうよ！」家が近いこともあり、有難い言葉を掛けていただいておりますが、耕運機も準備し本格的に始められているとは思っていませんでしたので、順調に育っている野菜と楽しそうに進めている作業を目の当たりにし、少し羨ましくなりました。でも、そろそろ真剣に考えないといけませんね・・・



【草取り及び虫除け液の散布】



【収穫間近の野菜】
ジャガイモ（手前）、トウモロコシ
名川産？の長いも（ビニールハウスの奥）